

フロリダ大学看護学部との交流と課題 —平成13年度教育改善推進助成報告—

¹⁾鳥取大学医学部保健学科地域・精神看護学講座

²⁾同 基礎看護学講座

³⁾同 母性・小児家族看護学講座

宮林郁子¹⁾, 谷垣静子¹⁾, 宮脇美保子²⁾, 人見裕江¹⁾
松浦治代¹⁾, 三瓶まり³⁾, 矢倉紀子¹⁾

International Collaboration with University of Florida, School of Nursing

Ikuko MIYABAYASHI¹⁾, Shizuko TANIGAKI¹⁾, Mihoko MIYAWAKI²⁾,
Hiroe HITOMI¹⁾, Haruyo MATSUURA¹⁾, Mari SANPEI³⁾,
and Noriko YAKURA¹⁾

¹⁾*Department of Nursing Care Environment and Mental Health Nursing,
School of Health Sciences, Faculty of Medicine, Tottori University,
Yonago 683-0826, Japan*

²⁾*Department of Fundamental Nursing, School of Health Sciences,
Faculty of Medicine, Tottori University, Yonago 683-0826, Japan*

³⁾*Department of Women's and Children's Family Nursing, School of Health Sciences,
Faculty of Medicine, Tottori University, Yonago 683-0826, Japan*

ABSTRACT

The purpose of this visit to the University of Florida were to maintain and to promote continuous relationship in exchange program, a joint research and teaching program on faculty members as well as nursing students. During this visitation, information related our research project were provided by College of Veterinary Medicine. A curriculum of BSN-MS program was introduced by School of Nursing. From March of 2002, introduction of our visitations and our program by School of Nursing Web site was a result of their significant efforts. To response the expectation from Dr. Long, Dr. Courage, and other faculty members is to establish strong connections in education and research that our nursing faculty members as well as nursing students to utilize for developing their future vision of nursing.

(Accepted on May 2, 2002)

Key words : University of Florida, International Collaboration, Nursing Curricula

はじめに

本邦では平成4年、「看護婦等の人材確保の促進に関する法律」が制定され、その後、看護学の学士課程が増設されていった。この時期がわが国における看護職養成の転換期といえよう。この法律が制定された背景には、慢性疾患の蔓延、高齢化、科学技術の高度化といった社会の変化に対応できる看護職への要請がある。また、グローバル化時代の進展に伴い、国際的視野に立つ看護学教育の検討がすすめられている。

鳥取大学における看護学教育は、長年、短期大学で行われてきたが、平成11年10月に保健学科に改組された。この4年制教育における看護学教育の目標の1つに「人類の健康と福祉の向上のために、看護活動を通して国際社会に貢献できる行動力」がある。すなわち、グローバル化時代への対応ができる看護職の育成を目指しているのである。こうした目標に対応する科目には、「国際医療論」があるが、改組以前における医療短期大学部においては、「国際看護論」が設けられていた。この科目の授業では、国際的な保健や医療の動向を学び、国際的感覚がもてるよう取り組みがなされていた。その一環として、平成9年よりフロリダ大学看護学部との交流が開始された。保健学科に改組になった平成12年、13年度には、教育改善推進費（学長裁量経費）の中の「国際交流の推進」の支援を受けて、公式にフロリダ大学看護学部を訪問した。そこで、これまでの交流の経過ならびにその成果を述べ、今後の課題を提案する。

経過と結果

平成9年の交流では短期大学部看護学科学生によるフロリダ大学看護学部での研修が実施された。この研修では、フロリダ大学の御好意により、当大学の看護学部生が受講している講義や演習に本学の学生も参加するという刺激的な経験ができた。その他にも、学部学生とのインフォーマルな交流、学部長、教育病院看護部長等を交えての日米の看護事情についての討議、及び病院見学を通してアメリカの看護教育や臨床看護に触れることができた。こうした経験は本学の学生にとって、非常に有意義なものであっただけでなく、フロリダ大学の学生にとっても日本文化を知る良い機会になったようである。

また、平成12年は、国際交流推進を目的に同大学を公式に訪問した。この訪問については本誌52号に概要を述べた。この視察では臨地実習における教育方法のあり方、カリキュラムの見直しの必要性、国際交流の継続の意義という点で成果が見られた。

平成13年は、平成12年におけるフロリダ大学との交流において課題であった研究協力の確認、教育カリキュラムについての助言、将来にむけての看護学専攻の教官、学生との交流提携をはかることを目的とした。

研究協力に関しては、筆者の研究テーマである「老年期の生き甲斐と自殺」について、老年精神看護学のGodbey教授、及びカリキュラム責任者であるRuland教授の協力が得られることを確認できた。また、このテーマに関連したもう1つの研究課題として「アニマルセラピーの有効性の検討」があった。アニマルセラピーは、高齢者が動物とのふれあいによってストレスが軽減され、健康にもよい影響を及ぼし、高齢者の生きがい生活にとって有効であるという報告されている。そこで、獣医学部のClemmons教授の協力を得て、「Animal-Human Bond」についての情報を収集することができた。しかながら、教育病院、診療所を見学する機会を通して、セラピーアニマルの育成はかなり厳しい条件があることがわかった。こうした現状を知ることにより、我々は往々にして、治療効果としての人間の変化に注目しているが、その一方で、動物には、強いストレスがかかっていることがわかった。こうした問題は、動物虐待にも発展しかねないということに気づくことができ貴重な経験となった。この研究に関しては、そうした知見を考慮に入れた取り組みの重要性を認識した。

教育に関しては、12年度の訪問時にRuland教授は、看護教育において、「フィジカルイグザミネーション」を教授することが必須であることを強調された。このことは、本学の保健学科においても3年前期開講の「看護学ゼミナール」の中に取り入れるという形で生かすことができた。この授業は、看護系教官で構成するワーキンググループが中心となって、医師系の教官の協力を得て実現しているものである。初年度の今年は、試行錯誤しながら進行している段階である。

また、13年の視察で最も関心をもったところは、

フロリダ大学のカリキュラムに設定されている看護学部への編入とBSN-MS(看護学士及び看護学修士)のプログラムであった。本学でも14年度から3年生への編入が始まり、平成16年度からの大学院開設に向けての準備も始められている。3年生への編入はフロリダ大学においても看護短期大学や他学部の卒業生が入学しているが、本学との違いは編入生の中に臨床経験のある看護師が圧倒的に多いことである。その為、編入生にはアドバイザーがつき、カリキュラムの内容も臨床経験のないいわゆるストレートの入学生とは異なっている。編入前までの臨床経験や単位修得したものに關しては、科目担当教官の許可が得られたら試験を受けることができ、合格すれば単位が認定される。編入生が履修しなければならない科目は、主に「専門職としての意識を高めるためのもの」、「知識と技術を強化するためのもの」である。具体的には看護管理、医療政策、ヘルスアセスメント、看護研究、地域看護実習、学生が希望する領域での総合実習等である。また、最近BSN-MSプログラムを持つ大学が増えてきた。これは臨床経験のある編入生の方が勉学意欲も高く、高率に大学院進学を目指す傾向にあることもその理由の1つであろう。このプログラムでは、そのような学生に対して2学期分が短縮できるメリットがある。最短3年間の修業で看護学士と看護学修士の修得が可能である。北米の看護大学、大学院は臨床指向である。教官の50%が臨床でいくらかの実践フィールドを持っている。これも臨床指向を高める1つの理由である。Communityであれ、Home Careであれ看護という名がつけばそれは臨床看護の延長線上にあると捉えられている。その為、看護の基礎教育である学部の教育を充実させている。また、看護大学院(修士)の入学資格には看護師免許があり、看護学士であることが要求され、さらに学部教育での看護専門科目における試験の平均が80点以上のレベルであることが求められている。こうした要求は、大学院が開設されて以来変わっておらず、このようなレベルを保つことによって、教育の水準を維持し、質の高い看護師を育成しているのである。

こうした米国の看護教育の実情と比較すると、日本の看護教育には多くの課題が山積しているといえるであろう。我が国では短期大学が4年制になり、専門学校卒業生にも編入の門戸を開いたこ

とは喜ばしい事であるが、そのためのケアが十分にされているとは言えない。つまり、編入生のニーズに沿ったガイダンスができていない。また、大学院の入学資格が専門学校卒業生でも短期大学卒業生でも一定の年齢に達し、看護師の免許をもち、いくつか論文があればよいということに至っては、看護教育の将来を真剣に考えてのことかという疑問をもつ。大切なプロフェッショナルとしての臨床看護師の基礎をつくるどころが学部教育であると考えれば、その基礎教育を軽んじるような教育システムは看護教育には不適切である。社会のニーズが一般社会に広く門戸を開いた教育であったとしても、看護教育はプロフェッショナル教育であるところからは切れない。

おわりに

フロリダ大学との交流については、本学保健学科看護学専攻のみならず、フロリダ大学においてもInternational Collaborationの意識はあるが、看護学部独自で意識的に動くということはあまり無かった。しかし、これまでの数回にわたる交流によって、フロリダ大学では看護学部長、副学部長及び学科長の働きかけもあり、学生、教官の国際交流を意識的に推進していく傾向に変化していることを感じる。その一つの表れとして、14年から本学保健学科看護学専攻との交流についても、フロリダ大学看護学部のホームページに載せていただいている(図1-2)。本学の看護学専攻の教育目的の中に「国際的に活躍できる人材を養成する」という項目があるが、残念ながら、その方法論は曖昧で、授業科目の国際という文字に任せているところがある。国際交流を有意義に持続させていくためには、学生や教官の研修、見学、教官の共同研究等を通じた方法が考えられるが、それには活発な意見交換ができたり、研究についての議論ができるだけの語学力も必須になるだろう。語学の上達等はそれぞれの自助努力にまかせられている。これも国際交流が一向に先に進まない原因ではないだろうか。我々が研究のプロポーザルを持って行くことも可能であり、フロリダ大学から教官を招聘することも可能である。実際の関わりの中で養われる語学力もある。ただこれを個人の努力に頼っては限界がある。

学生の中には、本学では、なぜ海外の看護学部

Tottori University



COLLEGE OF NURSING

International Programs/Projects

International Collaboration: Tottori University, a National University of Japan



Since 1997 the College has maintained a continuous relationship with nurse educators from Tottori University, a National University of Japan.

Collaboration with faculty members has included enrollment of a faculty member (Ms. Ikuko Miyabayashi) in College of Nursing graduate courses, and a five-day visit of 22 Tottori nursing students with faculty members (I. Miyabayashi and M. Miyawaki) to the College in 1998. During this visit, faculty members and students from both institutions had the opportunity to compare baccalaureate curricula, instructional strategies, use of technology in education and clinical experiences.

In the Summer of 2001, three faculty members from Japan visited the UF College of Nursing. Professors Shizuko Tanigaki, Department of Community and Mental Health Nursing and Ikuko Miyabayashi, Department of Child Neurology from Tottori University and Dr. Shizuyo Kawashima, from Kitakushu University Faculty of Humanity. These faculty members met with University of Florida College of Nursing faculty members for consultation regarding curriculum development. The Nursing Department at Tottori University became a 4-year college in 1999, and is in the planning phase for a graduate program.

[Return to International web site](#)

<http://con.ufl.edu/international/TottoriUniversity.html>

図1. フロリダ大学看護学部ホームページ1

との交流ができないのかという疑問をもち、それが実現できるように希望する者も少なくない。こうした学生の要求及び教官の研究協力も含め、今後は、大学の公式な活動として、学生や教官の継続的な関わりで交流を深めていけるようにシステムを整えていくことが急務である。

本プロジェクトは平成13年度学長裁量経費の助成を受けておこなった。

今回の視察にあたっては、フロリダ大学看護学部のLong学部長、大学院の看護教官をはじめ、獣医学部のClemmons教授の御協力と御指導に深謝いたします。

UF College of Nursing International Programs/Projects



International Programs/Projects



Academic Programs/Assistance

- [Exchanges with University of West Indies](#)
- [Collaboration with Tottori University, Japan](#)
- [Consultation with Turkey](#)

Special Projects

- [Worldwide Cancer Prevention/Control](#)
- [Cancer Nursing: An International Journal for Cancer Care](#)
- [Health Care in Haiti](#)
- [International Women's Program](#)
- [Outreach to Africa](#)

Fulbright Scholars from College of Nursing

- [Professor Lois J. Malasanos - Turkey](#)
- [Professor Sharleen H. Simpson - Jamaica Hypertension](#)

University of Florida's International Office

- [UF International Office Web Site](#)



<http://con.ufl.edu/international/>

図 2. フロリダ大学看護学部ホームページ 2